

---

# 夢の続き

はるやん

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢の続き

### 【Nコード】

N7014Y

### 【作者名】

はるやん

### 【あらすじ】

夢の、続き。。。。

僕は、彼女のことを考えている。  
何処かで見たことのある顔なのだ…  
なのに、思い出せぬ。  
それはとても歯痒い感覚だった。  
兎に角、寝なくては。  
そして、思い出せばいい。  
僕は、瞼を重ねた。

目を開ける。

しかし眩い光りが本能的に瞼を閉ざしてしまう。  
次は薄く目を開け、徐々に慣らしていく。  
瞳孔は開いているだろう。  
何故、瞳孔は光りの加減によって大きさが変わるのだろうか…

そんなこと、今はどうでも良い。  
時間が無いのだ。  
彼女を探さなくては…  
自分が起きてしまう前に。

その時既に、ここが夢の世界だと言うことには気付いていた。  
それは何故、と聞かれれば答えようはないが、何故か分かってしま  
う。

不思議だ

声は、出ない。

代わりに醜い喘ぎ。

泣きたい気持ちだった。

焦りが、内なる世界を壊していく。

彼女は、見つからない。

それどころか、いつからか辺りは深い闇。

一寸先は、黒。

それしか相応しい表現が見つからない。

辺りを見渡す。

それでも、景色は変わらない。

歩く。歩く。

怖い

立ち止まる。

今、僕は何をしている？

なんのために歩いて、なんのために生きて…

分らない。

それだけで片づけられるほど、僕の生き甲斐は儂いの

そこに、一筋の明り。

それはどうにかすれば消えそうで、それでも懸命に光っている。

僕はまた歩き出す。

明確な目標に向かって。

しかし、一向に光に近付いている様子はない。

それどころか、光は僕から遠のいているようにも見える。

何故、

考えが見つからない。

目を閉じてみる。

闇。闇。闇。

そこにあるのは、恐怖。

何が怖いのか？

そんなことさえ、分からない。

無知の極み。

目を開ける。

いつも通り真っ白な世界。

そこには 彼女がいた。

「やっと見つけた」

喉が、口が勝手に開いた。

「僕は・・・貴方が好きだ」

その声は、確かな形となり、彼女に届いた。

「私も好き。だけど、もうダメ。もう一緒にはいられない。ごめんなさい」

彼女は泣いていた。

景色が変わる。

ここは 彼女の家だ。

目の前には大きくなった彼女と、見知らぬ男。

「あいつはもういいのか？まだ\*\*のこと好きなんだろ」  
男は彼女にキスを落とす。

離れる・・・

＊＊から離れる！！

声は・・・出ない。

向こうには姿さえ見えてないみたいだ。

「あんなやつもう嫌い。今はじゅんじゅんがいて幸せだもん。今日は味噌汁作ってあげる」

今度は、彼女の方から唇を委ねる。

もう・・・いいや。

この瞬間、恋は、終わった。。。

（後書き）

夢で失恋を実感（？）するなんてどうかとは思いますが、ほんとにこんな夢見て諦めがついたんだから、人生どうなるか分からない。

ほんとじゅんじゅんって誰・・・

身に覚えは、ありません

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7014y/>

---

夢の続き

2011年11月21日06時53分発行